

「仮説検証型研究のススメ～動物行動学入門」

講師 京都大学大学院理学研究科 福田 将矢 氏

今回の講座は、京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している「学びコーディネーター事業」を活用し、46名の希望生徒が集まり開催されました。まず、先生が研究対象としているヘビの行動を例に、なぜこの動物はこんな行動をとるのかについて考えました。次に、動物の行動は4つの要因に分けて説明できるという「ティンバーゲンの4つの問い」により、ヘビの行動が、異なる捕食者それぞれに対する防御行動であり、目的をもった行動であることが明かされました。そして、それを明らかにしていく過程における仮説の生成について丁寧にお話いただきました。詳細な観察や先行研究の調査などから十分なデータ収集を行うことで、単なる疑問が仮説として生まれ変わるというご指摘に、多くの生徒が自分たちの課題研究やDS（普通科課題研究）を振り返り、認識を新たにしました。仮説検証型研究とはいかなるものかを考えた1時間でしたが、動物の行動に対する好奇心のみならず、大学で何を学ぶか、自身の進路選択についてなど多くの気づきを与えていただき、大変有意義な時間となりました。

